

学術情報発信のための協力者会議（第2回）議事要旨

日時：平成15年12月18日（水） 13:00-15:00

場所：附属図書館会議室

出席者；

竹内助教授、伏見教授、松元教授、瀧口教授、宗宮教授、森下教授、池上助教授、長岡研究協力課長、五十嵐事務部長、京藤情報管理課長、尾城情報サービス課長、加藤雑誌・電子情報係長、阿蘇品雑誌・電子情報係員

（陪席）岡田研究協力課学術企画係長、松島国際交流課専門職員

欠席者；

草刈館長、土屋教授、高木教授、正木教授

資料

資料1．学術情報発信のための協力者会議（第1回）議事要旨（案）

資料2．運用指針（ガイドライン）第一次案

資料2-2．登録申請書式（案）

資料3．著作物利用許諾のあり方（案）

資料3-2．著作物利用許諾書（案）

資料4．登録インターフェースの改善（案）

資料5．利用インターフェースの改善（案）

資料6．初期データ整備の進捗状況について

資料7．出版社等の著作権ポリシーに関する調査結果について

資料8．Create Change - 学術コミュニケーションの変革を - パンフレット

机上配布 登録インタフェースの改善策について（土屋教授）

概要

草刈館長欠席のため、伏見委員が代理で司会進行を行った。

議 題

1．前回議事要旨の確認

伏見委員から、資料1の内容について確認を求めた。

その場では意見等は無かったが、もしあれば、メール等で連絡することとした。

2．運用指針（ガイドライン）第一次案について

尾城課長から、資料2及び資料2-2に従って説明があった。

以下の意見を踏まえて原案を適宜修正し、次回会議で第2次案として提案する。

【学術情報資源の登録】

- ・ 社会に還元する義務、納税者に対する説明責任、といった文脈から、「情報を積極的に発信すべき」というスタンスをさらに強めた方が良い。「成果を社会的に還元する」などと言い換えてはどうか。
- ・ 本学に過去在籍した者（退職・転出・卒業・修了）が、在籍中になした著作物も含まれるような言い方であるべきだ。
- ・ リポジトリの趣旨としては、個人業績の網羅的蓄積・発信ではなく、千葉大学在籍中に作成された（千葉大学在籍中に主たる部分が成し遂げられた）成果物の蓄積・発信である。一方、エンドユーザの立場からは、リポジトリに含まれる当該著作物が千葉大の成果であるかどうかは問題ではない。
- ・ 卒論等、学部学生の著作物については、指導教官を登録者として、内容の責任をもって登録すればよいのではないか。
- ・ リポジトリから発信されるコンテンツとリポジトリ以外（教官の WWW ページ等）から発信されるコンテンツ、とが、研究者データベースの業績一覧とリンクできれば、個人業績としてかなり網羅的なアクセスを保証できるのではないか（ただし、千葉大研究者 DB は、転出・退職と同時にレコードを削除してしまう）。
- ・ 共同プロジェクトの報告書等で他機関研究者の著作物が含まれる場合、プロジェクト代表者等の千葉大在籍者が他機関研究者の合意を得たうえで登録すればよいのではないか。

【学術情報資源の著作権】

- ・ 「一部」ではなく、「複製権及び公衆送信権に基づく利用」など明示すべきである。

【学術情報資源の削除】

- ・ 管理者側による削除も可能な文言にすべきではないか。その際、削除すべきかどうかは、【運用組織】で定める委員会で決定することになる。
- ・ 先行リポジトリでは、管理者側がコンテンツを削除し、削除理由を書いたメタデータを残す、という方式をとっている例がある。
- ・ 電子ジャーナルにおける例にならってはどうか。
- ・ 登録に際してなんらかのチェック段階はないのか。 ない。

3. 著作物利用許諾のあり方（案）について

阿蘇品係員から、資料3及び資料3-2に従い説明があった。

以下の意見を踏まえ原案を適宜修正し、次回会議で提案する。

- ・ 資料 3-2 は個人以外が許諾者となることは想定していないのか。
資料 3-2 は個人向けの許諾書ひな型を意識した。個人以外のケースでは、例えば「初期データ整備」において、学内紀要をリポジトリに一括登録する際は、著作権を各著作者から譲渡された者（学部長ないし紀要編集委員長等）から利用許諾を得ることとしている。
- ・ システムバックアップをとる旨、一言触れておいた方が良い。
- ・ 資料 2 及び 3 で用語の混乱・不統一が見られるので、整理して統一すべき。例えば、「著作者」と「投稿者」、「登録」と「投稿」、「著作物」と「コンテンツ」など。

4．登録インターフェースの改善（案）について

尾城課長から、資料 4 に従い説明があった。

以下の意見を踏まえた仕様案をまとめ、メーリングリストで提示し、承認を得た上で、開発業者に改造を依頼するものとする。

- ・ CSV 一括登録(案 2)をメインに据えると研究者にとってはありがたいと思われる。
- ・ 検索インタフェースのクオリティをどの程度に想定するかが登録する側の入力項目に関わってくる。高度な検索を期待するなら、分類や検索語の統制等が必要であり、それだけ図書館側の負担増となる。
- ・ 一度に送信可能なデータ量は限られているか。LAN を圧迫することはないか。
試行版では、3 メガバイトを上限としている
- ・ 登録者にとってのメリット/デメリットを明確にすべきである。特にメリットを強調しないと、登録は進まないと思われられる。

5．利用インターフェースの改善（案）について

尾城課長から、資料 5 に従い説明があった。

以下の意見を踏まえた仕様案をまとめ、メーリングリストで提示し、承認を得た上で、開発業者に改造を依頼するものとする。

なお、利用インタフェース仕様の本格的検討は、ある程度登録データが蓄積されてから行うものとし、当面、登録インタフェースを中心にシステム改善を図るものとする。

- ・ 目指すところは、電子ジャーナルのインタフェースに近いと思われるので参考にしてはどうだろうか。
- ・ 紀要等であれば、巻 号収録分の一覧表示といった機能も望まれる。
- ・ 研究者データベースへのリンクも望まれる。

．報告事項

1．初期データ整備の進捗状況について

加藤係長から、資料6に従い説明があった。

2．出版社等の著作権ポリシーに関する調査結果について

尾城課長から、資料7に従い説明があった。

IRワーキンググループで作成した調査結果一覧表をスクリーンで確認した。

3．Create Change について

京藤課長から、資料8に従い説明があった。

．その他

次回委員会は、2月に開催する。具体的日時については、追って事務局で調整することとした。

以 上